

「医療の不確実性と安全」

「先生、全身麻酔は安全ですよね」

手術前に麻酔科外来で診察をしますが、麻酔に関する医療事故報道の後では、このような質問が多くなります。患者さんは、明らかに麻酔に対して不安感を持っており、麻酔科医に「安全」というお墨付きをもらい、安心したいのだと思います。

「大丈夫ですよ。安心してください」と、にこやかに語りかければ、患者さんは安心して麻酔を受ける気になるのかもしれませんが、しかし、安易な対応をすることは、事実と反するばかりか、患者さんに誤った判断をさせることになりかねません。麻酔薬や生体モニターなどの進歩に伴い、近年の麻酔は著しく安全性が高くなりましたが、いくら安全性が高いといっても、100%安全なわけではありません。

私たち医療者にとって、100%安全な医療などあり得ないことは自明のことですが、患者さんにとっては、自分の受ける医療が安全で確実であることを強く期待しています。医師にも過大な期待を託し「医療行為には常にリスクがある」という現実が見えにくくなりがちです。

医療には、多くの不確実、不確定な要素が含まれています。これを「医療の不確実性」といいます。「医療の不確実性」は、人間の生命の複雑性や有限性、各個人の多様性、医学の限界、医療提供者の考え方や技術レベルの不均一などによって生じてきます。医療に内在するリスクを理解するためには「医療の不確実性」についても十分に理解しておく必要があります。

現代医療の限界

現代医療は完成されたものではなく、常に発展途上です。現在行われている「最善の医療」が必ずしも「最善」であるとは限りません。実際、過去には正しいといわれていた医療行為が現在では否定されているものも少なくありません。このように医療における「善」は常に変化していくと考える方が合理的です。現在正しいと考えて行っている医療に全く間違いがないとは必ずしもいえないのです。

また、治療によって予期せぬ現象が患者さんの体に発生することもあります。私の専門領域の麻酔においても、手術の侵襲や麻酔薬の影響によって、突然不整脈が発生したり、血圧が低下する場合があります。安定した状態に戻すために治療しますが、原因に関しては不明なことも多いのです。

麻酔科医が全身麻酔で日常的に用する吸入麻酔薬に関しても「なぜ麻酔がかかるのか?」という根本的なことについて、いまだに科学的に解明されていないのが実情なのです。医学の進

歩は日進月歩と言われますが、現代医学は万能でもなく、すべてが科学的に解明されているわけではありません。不明な点が多く残されています。ここに医学の限界が認められます。

ヒトの体と心は中枢神経系、自律神経系、内分泌系、免疫系がお互いに調整しながら、調和を保っており、個体差があります。治療は、過去のデータの統計学的評価や医師の経験や勘に基づいて行われていますが、どのような治療においても各患者さんに個体差や多様性があるため、反応は必ずしも一様ではありません。さらに治療を施す医療者の技術レベルや医療観にも差があることから治療結果には必然的にバラツキが生じてしまいます。医療では、製造業における商品生産のように、均一の素材に何段階かの工程を加え均一の商品を作り上げるような訳にはいきません。

「医学は科学に裏打ちされたアートである」(ウィリアム・オスラー)という言葉がありますが、治療には「アート」の要素が多いのです。そのため数学や他の科学分野のように「AならばB」というような再現性のある確実性の高い結果を導くことが困難です。こういう観点から「医学は科学ではない」と言い切る論者もいます。

医師は、よりよい結果を生むために最善かつ有効な治療手段を講じますが、結果を確実に保証することは困難です。しかし患者さんにとっては、「AならばB」という確実な結果でなければ満足していただけないことがよくあります。医療に対する過大な期待から、症状が改善しなかったり合併症で悪化したりすれば、すぐに「医療ミスではないか?」と疑う傾向があります。医療において生じる有害事象の中には、明確な医療ミスだけでなく、現代の医療ではどうしようもない不可抗力的なものが多く含まれていることを受け入れていただけないことが多いようです。

不確実性を共通認識として

「ささえあい医療人権センターCOML」では、患者さんが主人公になって医療に参加するための心構えを「新・医者にかかる10箇条」のなかにもとめています。その中の一項目に、「医療にも不確実なことや限界がある」と掲げています。

医療者と患者さんとの不要なトラブルを避けるためには、医療の持つ不確実性を共通認識として、十分な信頼関係を構築していくことが重要となります。島田病院では十分な説明を行い、安全な医療を目指していますが、医療には不確実、不確定な要素があり、常にリスクを伴うことを知っていただきたいと思えます。みなさま方のご理解とご協力をお願いいたします。

島田病院 院長 河崎 収



外来受付ボードについてのお願い

外来の受付時間前に総合受付にてお名前をご記入いただいているボードは、「受付の順番」をお取りするものです。診察の順番を取る・診察の受付をするものではありません。

受付ボードにお名前をご記入いただきましても、午前・午後ともに受付開始時間に総合受付にいらっしやらない場合は、診察の順番をお取りできません。改めて受付時間内にお越し頂き、その時点での順番となりますのでご注意ください。ご協力のほどよろしくお願い致します。

診療管理部

海外旅行について

秋になり、これから旅行に行かれる方も少なくないと思います。最近、海外旅行中に虫にさされて、重症の熱病にかかる方が増加していると言われております(デング熱など)。そこで、今回は海外旅行に関する一般的な注意点をご紹介します。

- (1) 食事の際には、よく手を洗い、できるだけ生水、氷、生もの(カットされたフルーツ・生牡蠣・生野菜・刺身など)を食べないようにしましょう。
- (2) 大自然の中では、長袖に長ズボンで皮膚の露出を避け、虫除けスプレーや蚊取り線香を使用しましょう。動物にはできるだけ近づかず手を出さないようにしましょう。
- (3) 土や水から感染する場合がありますので、裸足で土の上を歩いたり川などの水に入ることは避けましょう。特に傷のある場合は要注意です。

- (4) 睡眠を十分に取り、暴飲暴食をさけ、感染症に対する抵抗力をつけましょう。疲労がたまらないよう、スケジュールは余裕を持って組みましょう。水分補給も重要ですが、多過ぎると胃酸が薄まり、口から入ってきた病原体を殺すことができなくなります。

以上が主な注意点ですが、他にご質問のある方は内科・植田にご相談ください。

(文責:内科 植田秀樹)



皆様のご参加を、お待ちしております。

姿勢改善教室

自身の姿勢を見直し、改善したいと考えておられる方、正しい姿勢を保つためのストレッチやトレーニングの方法を知りたい方、必見の教室です。

日程：10月14日・21日・28日 全3日間
すべて木曜日

時間：15:00～16:30

場所：はびきのヴィゴラス

対象者：医師から運動制限をされていない方

費用：3,990円(税込)

※1日のみ参加でも全額徴収させていただきます

定員：15名

※お申し込みが2名以下の場合は、中止させていただきます

お申し込み

①はびきのヴィゴラスに直接お申し込み

②電話またはFAXにてお申し込み

※お問合わせは島田病院地下1階
はびきのヴィゴラスまで

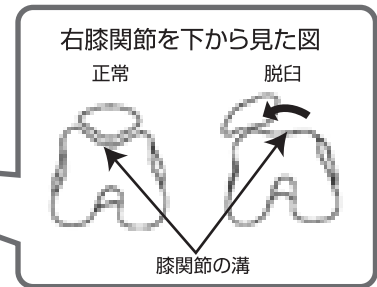
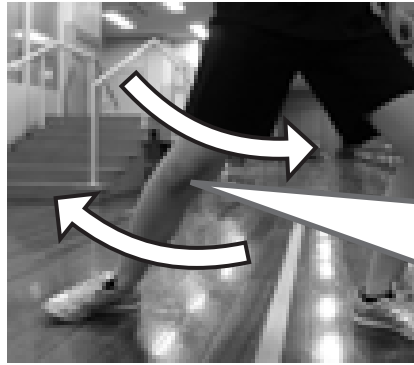
TEL/FAX 072-953-1007

E-mail vigorous@heartful-health.or.jp

膝蓋骨脱臼のリハビリテーション

膝蓋骨(しつがいこつ)脱臼とは

膝蓋骨は、膝の前面にあるいわゆる「膝のお皿」のことです。この膝蓋骨が、なんらかの外力によって膝関節の溝から外れることを「膝蓋骨脱臼」といいます。(右図) 症状は、膝蓋骨周辺の痛みや不安定感、それにとともなう不安感などがあり、比較的関節の緩い女性に多い傾向があります。不安定感が続くことで、膝関節周囲の筋肉や腱が炎症を起こすこともあります。

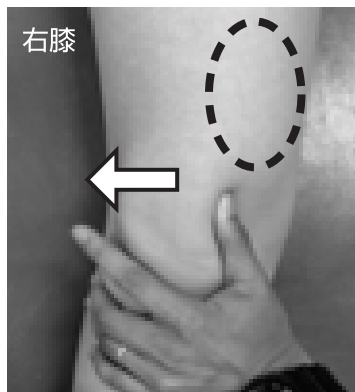


原因(例)

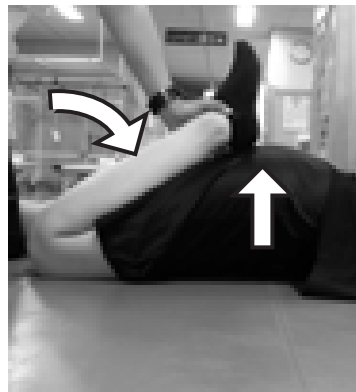
生まれつき膝関節の溝が浅い、膝関節が緩いなどの理由で膝蓋骨が不安定な場合、スポーツ競技中のジャンプや方向転換時に膝を捻(ね)じることによって外側へ脱臼することがあります。このように、身体的な特徴を基盤として、スポーツ動作や生活習慣などでの不適切な身体の使い方があり、脱臼に至る場合が多くみられます。

チェック方法(例)

膝蓋骨脱臼の傾向と原因のチェック方法をご紹介します。



右膝
太もも内側の筋肉が反対側と比較してやせている。
お皿を外側に押すと不安感がある



うつ伏せで膝を曲げるとお尻が上がる。(太ももの前面が床から浮き上がる)



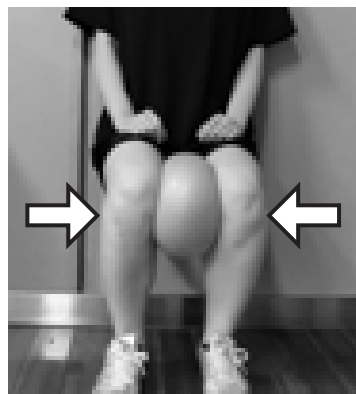
前へ1歩踏み出した時につま先に対して膝が内側に入りやすい。

運動療法(例)

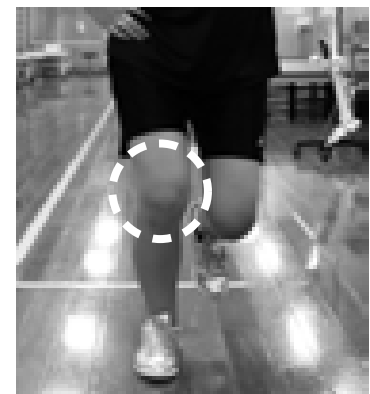
チェック項目で問題があった場合の運動療法(例)をいくつかご紹介します。



太もも外側の柔軟



内ももの筋力トレーニング



身体の使い方の練習
(膝が内側に入らないように)

はあとふるグループ 使命

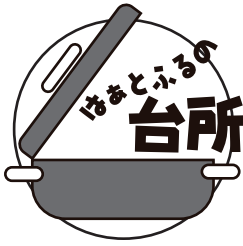
私たちは、良質のヘルスケアサービスを効率よく地域の方々に提供し続けます

はあとふるグループ 理念

私たちは、その人がその人らしく自分の人生を全うすることを心(Heart)と技術(Hands)で支援します

島田病院 理念

人間愛と確かな技術に基づき信頼でつながるチームで、安全に、心に届くサービスを提供します

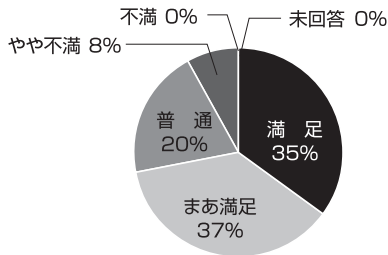


島田病院 食事満足度調査結果

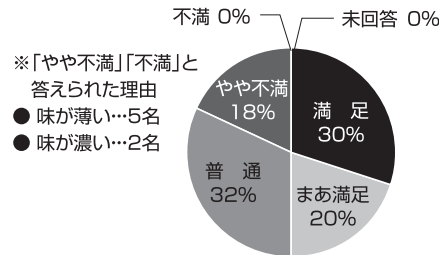
島田病院栄養管理課では、「入院中の食事の質の向上」を目的に、患者様への食事満足度調査を毎年2回実施しております。今回は、平成22年6月に実施致しました、食事満足度調査結果を発表します。

期間:平成22年6月7日~6月26日 対象者:入院患者様60名 回収率:70%(60名中40名回収)

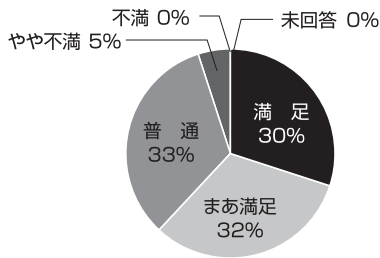
①お食事全体



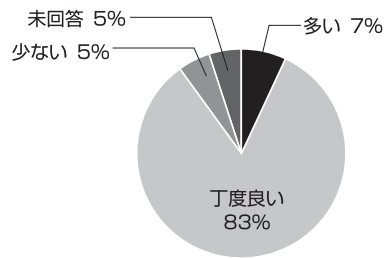
②味付け



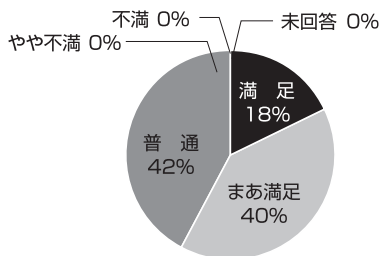
③温かさ



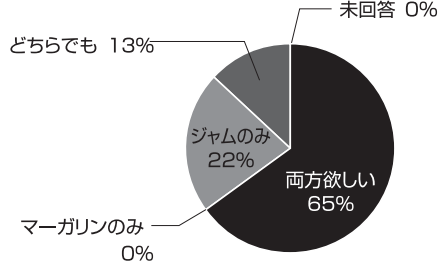
④おかずの量



⑤盛りつけ



⑥パン食のマーガリンやジャムについて



⑦その他のご意見(一部抜粋)

- 普段食べ過ぎの感もあり、食事の見直しを考えさせられました。 ●配膳も十分気を使って頂き、ありがとう。
- 家でもこのような味付けで食べれば、ほんとうに体に良いのになあと感じました。
- 野菜料理が上手に工夫されているので、退院してから参考にさせていただきます。 ●選択メニューが楽しめた。
- 肉料理がもう少し欲しい。 ●夕食時は毎食一汁欲しい。 ●朝食のおかずを増やしてほしい。 ●ピーマンが多すぎる。
- 同じ味付けが多いので、洋食系も出して欲しい。

この結果を参考に、同じ味付け・食材の重なりのないような献立、嗜好に合ったパン食への改善を図ってまいります。味付け・盛りつけについても今一度見直しを行い、皆様に満足いただけるような食事提供を目指していきます。アンケート調査にご協力頂き、ありがとうございました。

